

## 森林内のシカ採食圧を原因とする土壌浸食の対策工法の比較の考え方

### 手法検討基準

- ・自然の力の活用(毎年供給されるリターの活用)
- ・天然素材の利用(環境負荷を最小限にする)
- ・景観の維持(自然公園の景観を調和させる)
- ・維持管理の容易な構造(一部の破壊が浸食の拡大を招かないように)

### 対策実行場所の特性(森林内のシカ採食圧を原因とする土壌浸食地)

- ・上層木があり、リターが毎年供給される(従来の上腹裸地との違い)
- ・植生衰退により地表面が裸地化しているが、土壌は攪乱されていない。

| 区分        | 具体工法      | 工法区分  | 評価基準 |      |    |      |        | 備考                  |
|-----------|-----------|-------|------|------|----|------|--------|---------------------|
|           |           |       | 自然力  | 天然素材 | 景観 | 維持管理 | 効果発現期間 |                     |
| 従来工法      | 筋工(山腹緑化工) | 勾配の緩和 |      |      |    |      | 1~2年   |                     |
| 従来工法の応用事例 | 亀甲金網柵工    | リター堆積 |      |      |    |      | 1~2年   | 落葉供給があり、極端な風衝地でない場所 |
| 今回検討手法    | 植生保護柵改良型  | 植生回復  |      |      |    |      | 5~8年   |                     |
|           | リター捕捉工    | リター堆積 |      |      |    |      | 1~2年   | 落葉供給があり、極端な風衝地でない場所 |
|           | 筋工改良型     | 勾配の緩和 |      |      |    |      | 1~2年   |                     |